

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

一雨ごとに寒さを増す時期を迎えた。気象庁は南米ペルー沖の監視海域で、海面水温が低い状態が続き、世界的な異常気象の原因と

される「ラニーニャ現象」が発生したとみられると発表した。今冬は気温が低い傾向で、西高東低の冬の気圧配置が強まりやすく、日本海側では雪が多くなるとの見解は、冬の観光にとっては心強い朗報だ。

だが灯油価格の高騰に悩む年金生活者にとっては辛い生活が予想され、いかに暖房経費を節減できるか心を痛めるに違いない。生活困窮者に灯油券配布などの早急な支援の検討を望むばかりだ。

シニア大学卒業生を中心に構成する大北地区賛助会白馬小谷グループが企画した特別養護老人ホーム白嶺の落葉片づけ・雪囲い作業に参加する。コロナ禍でなかなか交流の機会がない会員同士、笑顔で会話が盛り上がる。「地域でも会議が限られ、食事会での和やかな

わった農地が近年耕さずに雪の時期を迎える事例が増えている。そのためか、鳥たちのエサ場として驚くほど多くの鳥たちの群れを観ることができると。海に入り蛤になるという。古くは中国で

な機会が少ないのか、小さなことでもおめでた「しまし」など地域づくりには、お互いの会話の積み重ねが大切な事を多くの会員が痛切に感じているようだ。

晩秋になったが、コマやソバの収穫の終わらせた農地が近年耕さずに雪の時期を迎える事例が増えている。そのためか、鳥たちのエサ場として驚くほど多くの鳥たちの群れを観ることができると。海に入り蛤になるという。古くは中国で

スズメが珍しい鳥とならない環境に心を

は、寒さが増すころ人里から姿を消す雀の色や模様が蛤に似ていることから言われ、「雀蛤」となる。晩秋の季節だ。天敵のカラスは多く見受けられるが、寒風の中、全身の羽毛を膨らませて電線に身を寄せ合う姿は、故郷の情景を際立たせている。

鳥類学者三上修さんの著書「スズメの謎」で、スズメは人のいるところばかりで子育てをする。天敵を避けるための生きるすべのようだと。このスズメの数が大きく減っていると環境省などの全国鳥類調査で1990年代の調査より1方羽も少ない約2方1000羽の確認にとどまり、い

ずれ絶滅危惧種に指定される可能性を指摘した。巣をつくりやすい昔ながらの住宅が減り、土が露出した場所が減り餌を取りにくくな

なったのが減少の原因だとされるが、榮しそ

うに乱舞するスズメを

はと期待してしまっ

た。 (信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



楽しそうに作業する会員たち。落葉を腐葉土にして地域活動との話が盛り上がる